



埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第50号

平成23年1月



巻 頭 言

会長 渡 辺 雄 幸



新年を迎え、同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

昨年は政治不信や景気低迷などが続いた一年でしたが、一方、バンクーバー冬季オリンピック、サッカーワールドカップ南アフリカ大会など、国際的に明るいニュースもありました。

また医療現場では、4月に十分とはいえないものの、プラスの診療報酬改定が行われ、少しはいい方向が見えたようにも思いますが、相変わらずの医師偏在など、多くの問題点が未解決のまま年を越しました。そんな状況ではありますが、本年は国内外で景気回復が期待されるなど、色々な問題が好転し、卯年にちなんで皆が大きくジャンプできる年になればと思います。

さて昨年は、同窓会会員の皆様にご協力いただいた二つのアンケート結果が集計されました。一つは、在校生と初期臨床研修中の卒業生に対して行われました。近年の少子化のため、多くの私立医科大学の受験者数が減少しているといわれる中、本学はまだまだ受験者数減少はなく、今後ますます優秀な後輩の入学が期待されているところです。しかし他校と比較して、母校で研修する卒業生が少なく、大学側も真剣にその原因の究明と、研修環境の改善に努力しております。同窓会の大きな使命は、母校へ寄与する事と後進の便宜をはかること、またこれからの母校の発展に対しても、その中心的役割を担う事であると言えます。卒業生の力は不可欠であるにもかかわらず、新卒業生が母校に残らなくなって

いくのは残念というほかありません。大学と協力して、一人でも多く研修していただけるように頑張っていきたいと思います。

もう一つは、女性医師に対して行われました。同窓会会報の特集号「女性医師支援について考える」が皆様のお手元に届いているかと思いますが、その中に集計結果が掲載されております。巻頭言に柳澤先生が、単に医師不足を解消するためだけではなく、勤務医だけでなく、多くの卒業生が占める開業医にとっても大きな問題であること、更にこの問題の解決には、男性医師の理解と協力が不可欠であると書いておられました。先日、埼玉医科大学医療人育成支援センターの主催で、「埼玉県の女性医師を応援しよう」と題し、パネルディスカッションが開催されましたが、講演、討論が終わって、私も全く同じように感じました。同窓会の今後の活動に活かせたいと思います

さて、私が会長に就任してから早いもので、もう三年半が過ぎました。まだまだ会員の皆様のご期待に十分応えられていないことばかりかと思えます。結果から見れば、総会に出席された皆様から色々な意見が聞けたこと、大学側との良好な関係も維持されていることなどが、良かった点として上げられると思います。反省としては、全会員の皆様に対するアピールが十分ではなく、総会などいまひとつ盛り上がり欠けたところでしょうか。今後とも、会員の皆様のため、在校生のため、よりニーズに合った質の高い活動ができますよう頑張りますので、今後ともご支援、ご協力の程お願い申し上げます。